

「一つ一つ手直し支援」

外国人児童に日本語教材

県内の外国人らに日本語を教える市民団体「JTMとくしま日本語ネットワーク」(徳島市)が、被災地・仙台区の小学校教材を現地の日本語教室で使うために書き直す作業を手伝っている。東日本大震災で、教室を開く団体のスタッフには自宅を失った人もいて、手が足りない状態という。JTMとくしまの教師たちは4教材を夏休み終了までに仕上げることにしており、「小さなことだが、できる支援を」と作業を進める。

【山本健太】

JTMとくしまは、震災向けに独自で書き直しを受け、4月、仙台市では震災で自宅や本業「外国人の子とも・サポートを失ったスタッフもいる」の会に義援金を送って、作業が間に合わない状態を知ること。同市では作業は、日本語が分かる小学校などの教科書や教材が今春から改訂される区切ったり、漢字にふれ、教室に通う外国人児童がなを付けたりする。

東日本大震災

JTM ネット 仙台の窮状知り

児童らの日本語習得度に合わせなければならず、かなりの手間が必要という。JTMとくしまが手伝うのは、日本の古典文学や歴史に関する書籍など。13人いる日本語教師が自宅に持ち帰るなど手分けし、パソコンを使って作業に当たる。文章の区切り方や漢字のふりがなの基準が教師ごとで大きな差が出ることもないよう、相談しながら進め

ているという。
JTMとくしまの兼松

文字代表は「できることを一つ一つすること、次の支援が可能になる。継続した支援をしていきたい」と話している。



仙台市の日本語教室のために教材を書き直す「JTMとくしま」のスタッフ―徳島市内で